

子宮がん検診の結果が「要精密検査」の場合は、 必ず精密検査を受けましょう！

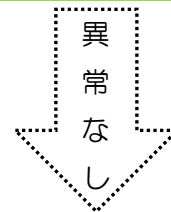
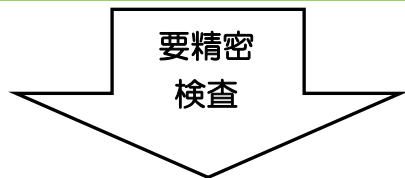
がんは、日本人の死因第1位で、年間37万人以上のかたが亡くなっています。
長崎市で平成29年に子宮がんで亡くなったかたは24人、子宮がんに罹ったかたは207人。
子宮がんは、20～30歳代に急増していますが、早期に発見し治療すれば完治できるがんです。

○子宮がん検診（長崎市のがん検診で皆さんが受けた検査）

問診、視診及び内診、細胞診（スメアテスト）

細胞診とは：ヘラのような器具や綿棒で子宮頸部（子宮の入り口）をこすって、採取した細胞を顕微鏡で調べる検査。

※子宮体部は、細く柔らかい管を子宮の中に挿入して内膜細胞を採取する。



○ハイリスクHPV検査※

【保険診療となります】

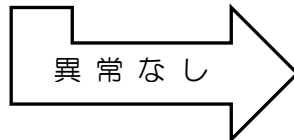
○コルポスコープ（膣拡大鏡）と組織診

子宮頸部の粘膜表面を直接拡大観察し、疑わしい部分の組織を少量採取して詳しく調べます。痛みはほとんどありません。

2年度に1回のがん検診を受けましょう

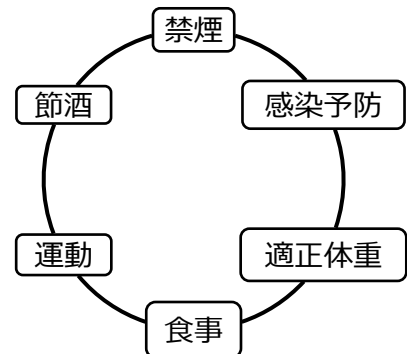
（不正出血やおりものの異常など、気になる症状がある場合は、自己判断をせず、早めに受診しましょう）

他のがん検診（胃・大腸・肺・乳）も定期的に受けましょう。



医師の指導に従って適切に対応しましょう。

がんは、「予防」と「検診」が大切です。下記6つの健康習慣に注意することで、将来がんにかかるリスクが約半減するといわれています。



出典：科学的根拠に基づくがん予防
（国立がん研究センターがん情報サービス）

※ハイリスクHPV検査とは？

子宮頸がんは、HPV（ヒトパピローマウイルス）感染が原因であることがほぼ解明されています。

HPV感染は、性交渉により伝播しますが、その90%は自己免疫でウイルスが体外へ排除されます。

逆に、10%は持続感染し、異形成（前がん病変）を経てがん化することが明らかになってきました。

HPVは、100種類を超える型に分類され、子宮頸がん発生に関連する型をハイリスク型と呼びます。

精密検査では、ハイリスク型に分類される13種類の型の感染があるかどうかを調べます。

大切な命を守るために、忙しさを理由にせず、必ず早めに精密検査を受診しましょう。